

第6期 福岡市男女共同参画審議会
DV防止・政策方針への参画促進部会（第5回） 議事録

1. 開催日時 平成28年7月25日（月）14:00～16:10
2. 場 所 福岡市役所 1504会議室（15階）
3. 出席者 （出席委員 6名）
相原委員、雁瀬委員、竹島委員、錦谷委員、原委員、星乃委員
（福岡市 2名）
市民局男女共同参画課長・こども未来局こども家庭課長
4. 傍聴人 なし
5. 議 題 （1）重点評価項目の審議・評価
6. 議事概要 （○…委員 △…事務局）

【議題1 重点評価項目の審議・評価】

- ① 「配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護」について
 - 区家庭児童相談室の相談件数の内訳からすると、若い人はなかなか相談できていないということか。
 - △ 区への来所相談には至っていないと考えられる。
 - 前回の部会では、警察に相談に行っている人もいるのだろうという話になった。
 - 警察へは被害が重篤化しないと行かない。重篤化する前に相談につながるよう、若い人への啓発が課題と言える。

- 前回の部会でも話したが、中学校でのデートDV防止教育にぜひ力を入れてほしい。

- 相談件数が増えているということは、DV事案が増えているということなのか、それとも、相談機関に相談しやすくなっているということか。

- △ 自分の置かれている状況をDVだと認識する人が増え、相談につながる件数が増えていると考えられる。

- 現場としては、DV事案そのものが大きく増えているという感覚はない。相談しやすくなっているのだと思う。

- 夫等からの暴力相談がかなり増えている。女性を守るシステムや男性への啓発方法など、現場としてどう対応していくのか検討する必要がある。深刻な問題なので、分析し、もう少し立ち入った対策を考えるべきである。

- 区に相談があった後、警察に通報して立件したものはどのくらいあるのか。

- △ 区から警察に通報した件数は分からないが、警察のストーカー及びDVの認知件数は年々増えている。

- ストーカー殺人事件が続いてから、警察も積極的に介入している。

- 警察との連携について、区ではどのように対応しているのか。例えば相談者に被害届を出すように勧めるなどしているのか。

- △ 区では、警察へ相談することを積極的に勧めている。被害届については、相談者が警察に行った後、警察が勧めている。

- 警察が相談者に区への相談を勧めた後、区に、相談したか否かの確認をとることはあるのか。

- △ 場合によっては、警察が区に相談歴を確認することもある。

警察でも、相談者に対し、今後のことを考えるために区への相談を勧めており、区と警察で、互いに補完しながら支援している。

○ 昨年度は中学校でのデートDV防止教育講演会の開催は1校だったが、増やす予定はあるのか。

△ 急激に増やすことはなかなか難しい。

○ 他市の実績も参考にするとよい。性的なことを焦点にするのではなく、性別による固定的な役割分担意識の視点から話すと、学校側も受け入れやすくなるかもしれない。

△ それでは、今年度の審議会意見は、平成26年度の審議会意見に加え、中学校でのDV予防教育の拡大について言及する。

○ 相談件数が増えていることから、実態の分析をしてほしいという意見があったが、まずは、分析するというを文章に盛り込むかを検討しなければならない。次に、増えた相談に対して十分に支援できているかという観点から、審議会意見としては、啓発だけでなく、実際の支援にも踏み込みたい。

② 「市の政策・方針決定過程への女性の参画促進」について

△ 前回の部会で質問のあった市職員の時間外勤務の状況についてだが、職員1人当たりの年間時間外勤務時間数は、平成24年度は132時間、平成25年度は136時間、平成26年度は127時間となっている。

また、介護休暇の取得状況は、平成24年度は取得者数17人（うち男性1人）、取得実績121日21時間、平成25年度は取得者数14人（うち男性5人）、取得実績142日18時間、平成26年度は取得者数18人（うち男性3人）、取得実績326日7時間、平成27年度（12月末時点）は取得者数20人（うち男性5人）、取得実績559日8時間となっている。

○ 市職員の育児休業制度はどうなっているのか。

- △ 制度として、子どもが3歳になるまで育児休業の取得が認められている。配偶者も同時に取得が可能である。
- 数日間のみ育児支援休暇は男性の取得が促進されていると捉えてよいか。
- △ 平成25年度の実績が89.8%と少し下がったが、高い取得率を維持している。
- 介護を女性に任せたままになっているという課題はまだ克服されていない。育児・介護休業を取得しやすくしないと、男女間の格差が生まれる。
- 育児のための部分休業を取ることによって勤務査定に影響はあるのか。
- △ 影響がないよう考慮するようになっている。
- 介護離職が増えてきているが、市職員の離職理由は把握しているのか。
- △ 退職理由は把握していない。
- プライベートなところなので、把握していないかもしれないが、分析してみるとよいかかもしれない。時間外勤務は平均時間かと思うが、部署によって男女差があるか。
- △ 福岡市特定事業主行動計画の資料によれば、本庁に勤務する職員は男性の方が多い。本庁は残業が多く、子育て中は区役所の方が勤務時間を調整しやすいからという理由で、区役所勤務を希望する女性が多いといったこともあり、配置に偏りが出ている。時間外勤務については、部署間で差があり、区役所で忙しい部署もある。
- 残業を減らす工夫が必要である。
- 平成24年ごろから時間外勤務は減ってきている。非正規職員が増えてきているからか。管理職の時間外勤務は含まれているのか。
- △ 管理職は含まれていない。ノー残業デー等の時間外勤務を減らす取り組みはしている。

- 労働時間を減らすのはよいことである。市役所の業務は増えていると思うが。

- △ 効率を上げる工夫は行っている。

- 定年を延ばしたりはしているのか。

- △ 再任用制度がある。

- 女性活躍推進法も制定されたが、女性の働き方がこれからは重要である。市職員への意識づけなどは行っているのか。

- △ ワーク・ライフ・バランスを推進し、男性の働き方も見直さないと、女性の活躍にもつながらない。

- 意識が変わっていくことが大事である。女性活躍推進法がきっかけになると思う。

- 市職員の女性の管理職率は目標達成には厳しい状況であると思う。管理職になりたがらない女性が多いのか。

- △ 現在は管理職の昇任対象となる年代に女性職員が少ない。40代以下は女性職員の割合も増えており、40代の女性管理職は徐々に増えてきている。女性の意欲向上に向けてもメンター制度や研修等で支援している。

- 市職員同士の家庭で、育児休業をしっかりと取得するなど、取得率を上げていただきたい。

- 市がモデルになって、使命感を持って、志高く実績を引き上げてほしい。

- ③ 「配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護」に対する審議会意見について

- 前回の部会で、「熊本地震の教訓から、災害対策計画に男女共同参画の視点を加えてほしい」という意見が出たが、その経緯についてもう一度確認したい。

- △ 前回の部会では、災害支援においては避難者たちの名簿を提出しなければいけない場面があり、DV被害者の秘密が守られているのか、十分な配慮がなされているのかが問題だと感じたという意見が出た。
- 例えば、避難所での暴力や、シェルターに避難していた人たちのプライバシーが守られているか、などが問題として挙げられる。
- △ 地域支援部会で、地域防災に男女共同参画の視点を盛り込まれたいという趣旨の意見をいただいている。
- DVに特化した文面でなくてもよいが、DV被害者の秘匿情報の保護など、DV防止部会で話した趣旨も入れていただきたい。
- △ 地域支援部会の審議会意見は、「災害時には、男女が直面する困難の違いへの対策や、多様な人々への配慮が必要であり、防災分野における女性の参画促進を図るなど、男女共同参画の視点に立った地域防災の推進に取り組んでいただきたい」という文章になっている。
- 避難所から仮設住宅に移るとDV事案が増えると思うので、その点も教訓にしてほしい。
- △ 地域防災計画の見直しにあたり、現在、男女共同参画の視点を入れようと検討しているところだが、避難所での物資や着替え場所の確保などに加え、避難所における性暴力・性被害の防止についても大切なポイントと考えている。地域支援部会からの意見になっているが、“男女共同参画の視点に立った”という中にDV被害者への配慮も盛り込まれていると認識している。
- 地域支援部会の意見は、DV防止部会で話した論点とは異なる。
- DV防止部会の審議会意見にも一言加えて、全体会で調整できないだろうか。
- 「特に、災害時における対応も考えることが重要である。」と加えるのはどうか。

△ 了解した。

- 若年層に対する教育啓発に関しては、平成26年度分の審議会意見と同様、小学校でのデートDV防止教育についても言及してほしい。
- 審議会評価については、事務局の自己評価は、達成度「B」、今後の方向性「充実」となっているが、審議会評価も達成度「B」、今後の方向性「充実」としてよろしいか。

(異議なし)

④ 「市の政策・方針決定過程への女性の参画促進」に対する審議会意見について

(意見案をもとに審議)

△ 事務局の自己評価は達成度「B」、今後の方向性「充実」としている。

- 審議会評価について、達成度「B」、今後の方向性「充実」でよろしいか。

(異議なし)